

# Question

# Explanation & Answer

## 1 ● クラウン・ブリッジの用件

歯冠補綴について正しいのはどれか。

- 1
- 1 大白歯の頬舌面の最大豊隆部は咬合面側 1/3 の位置にある。
  - 2 接触点の位置は歯の部位を考慮して決定する。
  - 3 咬合面の辺縁隆線が隣接歯と同じ高さにある。
  - 4 歯頸側辺縁部が歯肉縁下 3 mm の位置にある。
  - 5 頬側鼓形空隙が舌側鼓形空隙と同じ大きさである。
  - 6 咬合面形態は固有形態と機能形態を調和させる。
  - 7 歯頸部辺縁形態は合着用セメントの材質を考慮して決定する。
  - 8 唇・頬・舌側面の辺縁形態は歯肉縁の形状に左右される。
  - 9 歯冠形態は審美性を考慮して修正することがある。

鑄造冠の頬舌面形態が重要である理由はどれか。

- 2
- 1 咀嚼による歯肉縁への刺激
  - 2 舌機能の円滑化
  - 3 側方力の緩和
  - 4 齲蝕の防止
  - 5 歯周病の防止

隣接面の不良な接触関係により起こるのはどれか。

- 3
- 1 齲蝕
  - 2 食片圧入
  - 3 咬頭干渉
  - 4 歯の移動
  - 5 歯周疾患

クラウン・ブリッジの自浄性に関するものはどれか。

- 4
- 1 唾液の分泌量
  - 2 頬と舌との動き
  - 3 鼓形空隙の形態
  - 4 支台装置の材質
  - 5 咬合面接触点の数

- 1
- 1 × 大白歯の最大豊隆部は頬側が歯頸側 1/3、舌側が中央の位置にある。
  - 2 ○ 接触点の位置は、前歯、臼歯など部位を考慮して決定する。
  - 3 ○ 辺縁隆線の高さを揃える。
  - 4 × 歯頸側辺縁部は、歯肉縁下 0.5~0.8 mm の位置に設定する。
  - 5 × 接触点が頬側寄りがあるので舌側鼓形空隙のほうが大きい。
  - 6 ○ 咬合面形態はその歯種本来の固有形態と、対合歯との咬合関係で決まる機能形態を調和させる。
  - 7 × 歯頸部辺縁形態は、補綴物の種類、支台歯の状態などで決まる。
  - 8 ○
  - 9 ○

- 2
- 1 ○ 食物の流れに影響する。
  - 2 ○ 舌面形態は舌感や舌の機能に影響する。
  - 3 × 側方力の緩和には、咬頭傾斜など咬合面形態が影響する。
  - 4 × 齲蝕の防止には直接関係ない。
  - 5 ○ 適切な豊隆を付与してプラークの停滞や辺縁歯肉への過剰な刺激をなくす。

- 3
- 1 ○
  - 2 ○
  - 3 ○ 歯の移動によって咬合関係に変化が生じた場合に咬頭干渉が起こり得る。
  - 4 ○
  - 5 ○

- 4
- 1 ○ 唾液の分泌量が減少するとプラークが停滞しやすくなり、自浄性が悪くなる。
  - 2 ○ 頬と舌との動きが少ないと自浄性は低下する。
  - 3 ○ 頬側、舌側の鼓形空隙は自浄性に関する。
  - 4 ○ 支台装置の材質と表面性状はプラーク付着に深く関与する。
  - 5 × 咬合面の接触点の数の大小は自浄性には関与しない。